新宮山彦ぐるーぷ第２０２９回

浦向道・丸太架設橋の架け替えのための採寸など

◇実施日；２０１９年０６月 ２２日(土)　晴

◇参加者；沖﨑吉信、児嶋道夫、梶野照雄。
植平工業㈱会長　植平　修氏。　　計４名。

◎浦向道について

明治の初め郵便配達夫は逓送人と呼ばれ、十津川村の郵便局から風屋、折立、玉置山、上葛川を経由して、下北山村の浦向まで郵便物を運んでいたという。

浦向道（笠捨越）は十津川郷と北山郷を結ぶ重要な往還で、佐田ノ辻で奥駈道と交差するため、ここは第三の「嫁越峠」であったはずである。　「十津川郷の昔話」より。

我々ぐるーぷの活動は、奥駈道の維持・管理が主であるが、行仙宿補給路と併せ、玉岡相談役の「歴史ある道は残せ」の号令の下、葛川辻からの浦向道の点検・補修も行っている。

６年ほど前、和歌山市の瀧本昭太郎氏から、浦向道の陥没が指摘され、その危険度が高いことから、平成２５年４月８日に瀧本氏を含め１０名が出向き丸太橋を架設した。

丸太材は放置されていた間伐材を利用せざるを得なかったため、架設後５年くらいには腐食が目立つようになり、架け替えが宿題となっていた。

◎植平工業㈱植平修氏とのご縁について

会友の椎木・今野さんは、毎年山上ヶ岳の戸開式(5月3日早朝)に合わせて新宮から歩かれている。新宮を出立時、拙宅へもご挨拶に寄ってくださる。今年もお寄りいただいたが、見慣れない人が同行されていて、椎木さんより紹介いただく。金峯山寺に所属されている行者さんで、奈良県の宇陀市で普通鋼、特殊鋼、ステンレス鋼の加工・販売会社の会長さんとのことであった。

山道や谷への架橋も手掛けていて、軽量で分割可能、運搬も容易であるとのこと。「渡りに船」と浦向道のことを話す。

後日、植平氏から架橋の詳細な資料をお送りいただき、６月２２日に現場を見に行くことになった。

当日午前９時、登山口に集合。この話が決まれば、当然モノレールを使用するので、児嶋さんの運転で植平氏が同乗、沖崎、梶野は歩いて登る。

植平さんとモノレールで

現場丸太橋に到着

実況見分中

現場での採寸などは一時間もあればと思い、終了後に行仙宿まで手ぶらで登るのももったいないので、薪５束を持参した。

モノレール終点から浦向道の現場まで行き、終点に戻って各々が薪を手に行仙宿に登るつもりだったが、終点に着くと植平さんは薪を背負子で担い行仙宿へ登り始めたあとを、児嶋さんも後を追うように出発していた。

大声で「戻れ！」と言うも届かず、帰ってくるまで第２ベンチで待つ。出発前に作業手順の確認・打合せが必須だと再認識した。

しばらく待っていると、植平、児嶋両氏が降りてきて合流、４人で現場へ向かう。

丸太橋全景

採寸中

腐朽が進行

現場での丸太橋の採寸・調査は２０分ほど、植平さんは入念に寸法を測ったり、崩れて空洞になっている足元の状態などをチェックされていた。植平さんからは「架設可能です。この状態なので、かなり遣り甲斐があります」との言葉が聞かれた。

丸太橋下から

空洞が広がっている

行仙宿に到着

私も今年２月３日の浦向道点検巡視の際にこの橋を渡ったが、その時は単純に歩き渡っただけだったが、今回改めて見ると橋げたの丸太３本は腐りが進んでいて少し傾いているようである。３本の木の根張りが支えているようで、この木が倒れると落橋の恐れもある。

採寸の結果、橋の長さは５ｍ必要で、２．５ｍ物を２本繋ぐか、と言う話であったが、できれば５ｍ物一本の方が、継目がないので強度が高く寿命も若干長くなるということだった。５ｍの長さの資材をモノレールで運べるかどうかが問題になり、帰りにモノレールのカーブや周囲の状況をチェックすることになった。

現場調査を終えて行仙宿へ、昼食後、植平さんはポリタンクを持って水場へ。児嶋、梶野の２名は、トイレのＬＥＤ照明の交換作業、沖崎は小屋内を整理する。水場から戻られた植平さんによると、水場の流れは殆ど無かったそうだ。

午後１時半前に下山開始、モノレールに４人が乗って５ｍの長さの物が運搬可能かどうか目を凝らしてチェックした。

植平さんから「大丈夫なようだ、やってみましょう。帰って早速製作にかかります」とのコメントを頂いた。

本日の参加者

水場の状況

下山後、登山口で

来月にも掛替工事をすることになりそうだ。その際には皆様のご協力をお願いします。

行動タイム

登山口 09:00→10:04 浦向道・丸太架設橋現場 10:18→11:16 行仙宿 13:22→13:54 登山口。

（記：沖﨑　写真：梶野）